



# 鹿沼の自然・栃木の旅

月報第48号

(2016年12月・2017年1月)



*I couldn't see when it started  
snowin'  
Your voice was all that I heard  
I couldn't see where we were  
goin'  
But you said you knew an' I  
took your word  
And you told me later, as I  
apologized  
That you were just kiddin' me,  
you weren't really from the  
farm  
An' I told you, as you clawed  
out my eyes  
That I never really meant to do  
you any harm*

*But sooner or later, one of us  
must know  
You just did what you're  
supposed to do  
Sooner or later, one of us must  
know  
That I really did try to get close  
to you*

『One of Us Must Know  
(Sooner or Later)』  
(詳細は4頁から)

北光クラブ  
自然観察クラブ 鹿沼



## 特別寄稿

仕事始めの今日ですが、皆さんお元気ですか？

昨年中にメールをと思いながら、今となってしまいごめんなさい。昨年中は本当に皆さんのおかげで北光クラブの運営ができましたことを心から感謝しています。ありがとうございました。

いよいよ20年の今年、次に繋げる活動を考えて、少しずつ動き出しました。

「和をもって貴しとなし」で始まる17条憲法の第10条に、忿(ふん)を断ち、瞋(しん)を棄て、人の違(たが)うを怒らざれ、人みな心あり、心おのおの執(と)るところあり…「違い」を怒ってはならない、「違い」を認めたうえで協力しあいなさい、という聖徳太子の戒めです。私はこれが北光クラブの原点だと思っています。20年のあいだ、様々な意見や考え方を認めあって協力してきた結果だと感じています。

本当にありがとうございます。私たちの生きるこれからを託す今の子供達の未来に向かって、今できることを皆さんと共に協力しあえる幸せを今年は噛み締めながら更なる北光クラブを創造したいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。どうぞみなさんにとっても今年が幸せな1年であることをお祈りして、今年もよろしくお願い致します。

(1月4日受信・北光クラブ代表・渡辺真知子)

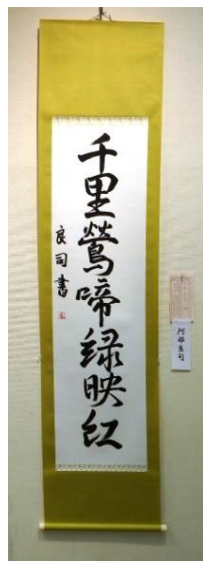
## 俳句など…

新しき 夜明けにありて 想う君  
良司



2017 年元旦  
坂田稻荷奥社にて

「千里鶯啼緑映紅」良司書→  
(鹿沼市民文化センター・市民書初展にて)



## 宇都宮・長岡の森ハイキング ～長岡百穴と瓦塚古墳探検～

長岡はかつては豊郷村の大字名でした。田川中流右岸の沖積地と丘陵に挟まれた谷状の狭い平地に位置します。中央部の凝灰岩が露出する地区に横穴墓として著名な長岡百穴があるほか北部の丘陵地には古墳や古代人の集落跡が散在しています。その凝灰岩は大谷石に近く、かつては長岡石として切り出しも行われていました。

宇都宮美術館のある「うつのみや文化の森」に車を1台置いてから長岡樹林地入口の仏舎利塔で下車。ここから宇都宮美術館を目指して歩きましょう。今回、宇都宮市在住でこの地域をフィールドとされている野澤辰郎氏に「豊郷まほろばの道」として整備されている道に沿って、特に自然の残されているポイントを中心に案内していただくことになりました。長岡石を切り出した巨大な穴もあるそうです。途中、大塚古墳、長岡百穴、瓦塚古墳（円墳及び前方後円墳）を見ながら、約2時間30分くらいの行程です。宇都宮美術館では現在、展覧会「石の街うつのみや——大谷石をめぐる近代建築と地域文化」が開催されています。

日 時：2月19日（日）AM8:00 北小西門集合

行 程：北小8:10——（鹿沼街道・宮環）——うつのみや文化の森——

長岡樹林地入口⇨9:00……長岡樹林地出口……大塚古墳（往復）……

長岡百穴……瓦塚古墳……宇都宮美術館（うつのみや文化の森）

——長岡樹林地入口⇨——北小

服 装：防寒着、帽子、手袋、軽登山靴または運動靴

持ち物：リュックサック、水筒（ポット）、弁当、おやつ、雨具、お手ふき、

ハンカチ、ちり紙、筆記用具、レジ袋、レジャーシート、スパッツ

必要に応じて：双眼鏡、ルーペ、カメラ、LEDランプ、ストック、

参考書（栃木の山150、栃木県の歴史散歩、探訪とちぎの古墳）、

1/25,000 地形図は「宇都宮東部」「宝積寺」

参加費：おとな200円、子ども100円（ガソリン代等）

宇都宮美術館入館料 おとな600円、小中学生200円

保険料（今年度） おとな1,850円

（65歳以上1,200円）、子ども800円

問合せ&申込み：電話 090-1884-3774（阿部）



## BLONDE ON BLONDE

(1966年5月16日・CBSソニー発売)

### One of Us Must Know (Sooner or Later)

(スーナー・オア・レイター)

わるくするつもりじゃなかったんだ  
そうふかくかんがえなくてよかったんだ  
かなしませるつもりじゃなかったんだ  
あんたがたまたまそこにいたという、それだけさ  
きみが友だちに「さよなら」といってわらったとき  
よくわかっているとおもっていた  
ほんとうの「さよなら」だとはしなかった

だが、いつかは、だれかが知るにちがいない  
きみは期待されたとおりしたのだったと  
いつかは、だれかが知るにちがいない  
ぼくがきみにちかづこうといっしょうけんめいだったことを

きみが見せてくれたはずのものを ぼくは見れなかった  
きみのスカーフがくちをうまくかしていた  
ぼくをどれだけわかってもらえるか わからないままだった  
でもきみはわかっているといったし ぼくはそう信じていた  
きみがぼくの耳にささやいて  
わたしをやめるの 彼女をやめるの ときたとき  
きこえたことの意味がわからなかった  
きみがどんなに幼いかわからなかった

だが、いつかは、だれかが知るにちがいない  
きみは期待されたとおりしたのだったと  
いつかは、だれかが知るにちがいない



阿部のLPレコード・コレクションから



THE TIMES THEY ARE  
A-CHANGIN' (時代は変る)  
1964年1月13日発売

ぼくがきみにちかづこうといっしょうけんめいだったことを

いつ雪がふりはじめたか しらなかった

きみの声だけしか きこえていなかった

どこへいくのか わからなかった

でも きみはわかっているといって、ぼくは信じた

それから あとになって、ぼくがあやまったときに、きみはいった

ちょっとからかってみただけなのと、ほんとはいなかから来たんじゃないんだと

そしてぼくはいった、きみがぼくの目をこじあけたとき

ほんとにわる気はなかったのだ と

だが、いつかは、だれかが知るにちがいない

きみは期待されたとおりしたのだったと

いつかは、だれかが知るにちがいない

ぼくがきみにちかづこうといっしょうけんめいだったことを

この〈スーナー・オア・レイター〉[原題「(遅かれ早かれ)僕らのどちらかが知らなければ」]は『ブロード・オン・ブロード』のために最初に—1966年1月下旬のニュー・ヨークで——録音されたトラックで、元々は66年2月にシングルとして発売されたが、アメリカではチャート入りしなかった(だが、4月に英国で発売されると、トップ30目前まで上がった)。

概要では、この曲はその前のシングル〈窓からはいだせ〉からのロマンティックな軌道の突き当たりにいる。彼の愛情の対象に自分と駆け落ちしようと説得することに成功したが、恋愛関係はそれから悪化していき、崩壊する。歌手は検死の段階に移ってしまい、厳密には何がいつ、どこでおかしくなったのかを探查しようとする。熱の入った審理の雰囲気は、ポール・グリフィンピアノとアル・クーバーのオルガンとの間の張り詰めたメロドラマ的な相互作用によって支えられる一方で、ロビー・ロバートソンが美しく選んだ一続きの軽い装飾音でコーラス部分を一緒に縫い合わせる。

「僕はそのセッションには呼ばれてなかった」とアル・クーバーは告白する。「でも、スタジオを訪ねて、結局あの曲で演奏することになった。〈スーナー・オア・レイター〉でのピアノ演奏は実に格調高く素晴らしい。あれはピアニストとしての僕に影響を与えたね。たぶんポール・グリフィンの最高の瞬間だろう。彼は素晴らしい奏者だったけど、ヴァレリー・シンプスンのせいで落ち込んじゃってね。自分が愛したピアノのスタイルを教え込んだ女性が自分を捨てて、ニック・アシュフォードのところへ走り、名声と富を得たんだから。彼は自分のピアノのスタイルを彼女に盗まれたと感じていたよ」。

この曲は〈シーズ・ユア・ラヴァー・ナウ〉(別名〈ジャスト・ア・リトル・グラス・オブ・ウォーター〉)から発展した。その曲は同時期にディランが断続的に取り組んでいたもうひとつの恋愛の検死だったが、『ブートレグ・シリーズ Vol.1〜3』に収録されるまで公式に発表されなかった。「おまえはただそこにいた。それだけなのさ」という行は両方の曲に現われる。この曲はディランが弁解にもっとも近づいた内容だが、その相手はジョーン・バエズかもしれない。「おまえが永遠のさよならを言っているなんてわからな

(次ページへ続く)

かった」の行は『ドント・ルック・バック』での彼女のホテルの部屋からの最後の退室について言及しているのだろう。あれ以降2人は数年間口をきかなかった。

バエズが彼のふるまいに深く傷ついたことは疑いもない——彼女はかなり長い間彼の新しいレコードを自分から聴くことはできなかったし、自伝の『ディブレイク』のなかでディランの名前を出すことに応じたのも、彼女の編集者だった(そして、その後小説『ラグタイム』を書く)E・L・ドクトロウから促されてやつのことで、それでも「ダダの王様」という呼び名でごく短く触れているだけだった。ディランとしては、彼女にまったく恨みは持っていないかった。彼女が自分の名前を確立する手助けをしてくれたと認めたが、何らかの借りがあるとは感じていないとロバート・シェルトンに主張した。「彼女には悪かったと思っている。というのは、彼女には信頼できる頼れる人が誰もいないんだ」と彼は説明し、ぶっくらぼうに付け加えた。「彼女はいかれた楽器を演奏する街のごろつきたちとはあまり共通するものを持っていないからね」。

## I Want You(アイ・ウォント・ユウ)

罪ある葬儀屋はなげく  
さびしいオルガン弾きは泣く  
銀のサクソフォーンはいう きみをことわるべきだ と  
ひびわれた鐘と洗いざらしのホルンは  
おれの顔に軽べつを吹きつける  
でもそんなふうには  
きみを失うためにおれは生れてきたんじゃない  
きみがほしい きみがほしい  
とてもほしい  
ねえ きみがほしい



よっぱらった政治屋がおどる  
町かどで母親たちは泣いている  
救世主たちはぐっすりねむり  
きみをまっている  
そして おれがまってるのは  
おれがこわれたカップから  
飲むのをやつらがじゃましようとするのを  
そしてきみのために門をあけてやれというのを  
きみがほしい きみがほしい  
とても ほしい

阿部のLPレコード・コレクションから



ANOTHER SIDE OF BOB DYLAN  
(アナザー・サイド  
・オブ・ボブ・ディラン)  
1964年8月10日発売

(次ページへ続く)

ねえ きみがほしい

おれのおやじたちはみんな死んでしまった  
恋人というものをもたなかった  
でも彼らの娘たちがおれをばかにする  
おれがそのことをかんがえないもんで

では、スペードの女王のところへかえろうか  
そしておれの侍女としゃべろうか  
彼女は知っている おれがおそれず  
彼女を見つめることを  
彼女はよくしてくれる  
彼女に見えないものはなにもない  
彼女はおれがどこにきたがってるかしっている  
がそれは問題じゃない  
きみがほしい きみがほしい  
とても ほしい  
ねえ きみがほしい



左より、ロビー・ロバートソン  
マイケル・マクルーア  
ボブ・ディラン  
アレン・ギンズバーグ(詩人)  
この写真のみハワード・スーンズ著  
『ダウン・ザ・ハイウェイ/ボブ  
・ディランの生涯』(河出書房新社刊)より

こんどは きみの踊る子供がシナ服をきて  
おれにしゃべりかけた おれはそいつのフルートをとった  
そう おれは彼にやさしくはなかったな？  
だが そうしたのは そいつがうそをついたからだ  
そいつがきみをドライブにつれていったからだ  
時間がそいつに味方したからだ  
おまけに おれは……  
きみがほしい きみがほしい  
とても ほしい  
ねえ きみがほしい



このアルバムからの3枚目のシングルになった〈アイ・ウォント・ユー〉は1966年夏に発売されると、大西洋の両側でトップ20入りするヒットとなった。音楽的には彼がそれまでに録音した中でも最もストレートにポップなトラックだが、この曲の歌詞は最も直接的な請願と最も困惑させられるイメージの間

(次ページへ続く)

で均衡を保つ奇妙な位置を占めている。この曲が時々ヘロインについての曲と受け取られるのはたぶんこの理由のせいだろう——たくさんの忘我状態を伴う比喩的表現が繰り返され、もっと多くを求める嘆願を促している。

歌詞全体を通して、僕は典型的なディランの登場人物のパレードに出会う。この曲の3分間に心地よく居住するには数が多すぎるほどだ。罪を犯した葬儀屋、寂しい手回しオルガン弾き、泣いている母親たち、父親たち、娘たち、眠っている救世主たち、スペードの女王、客室係のメイド、「人民服を着て踊る子供」——最後の人物はブライアン・ジョーンズを指していると噂された。伝えられるところでは、ディランは折にふれて彼を馬鹿にしたい。この変わり者たちと疑問の混乱するごたごたから、ディランは現われ、彼の最も単純で最も率直なコーラス、恋人への最も基本的な信念の表明を繰り返す。それはまるでコーラスであまりに直接的に表現された純真でゆるぎない愛が、彼に毎日の生活の混乱と要求からの逃避所を差し出しているかのようだ。それは彼が想像力の悪魔とキャリアの任務と闘った後に戻ることができる定点である。

「僕らが彼の部屋でこの曲を通してやってみたとき、僕は夢中になってしまったんだ」 アル・クーパー

これはアルバムのために最後に録音された曲だった。「僕らが彼の部屋でこの曲を通してやってみたとき、僕は夢中になってしまったんだ」とアル・クーパーは回想する。「僕はずっと言い続けていた。“〈アイ・ウォント・ユー〉をやろうよ”と。ボブはずっと先延ばしにしていた。僕をいらいらさせるためだけにね。彼がいずれ録音することはわかっていた。でも、僕は彼をせきたてた。というのは、こういった編曲のアイディアのすべてが僕にあったのに、録音されないんじゃないかと怖れていたんだ。でも、彼は「だめだ」と言い続けていた。そこで遂に、最後の夜彼が来る前にバンドに教えておいたんだ。彼が入ってきたとき、僕は言った。“勝手に彼らに〈アイ・ウォント・ユー〉を教えておいたからね”。彼はただ笑って、言ったよ。“ふーん、そうね、やってもいいだろう”。僕は答えた。“すべて準備が出来てる。こっち来て、プラグを入れればいいだけだよ”。僕は頭の中に基本的な編曲があったんだけど、そしたら、ウェイン・モスがあの16分音符のギターの楽節を弾いたんだ。驚いたね！ 僕が心に描いていたものに素晴らしい追加をしてくれたよ！ あれは僕が彼らのために書いたパートに、ミュージシャンたちが素晴らしいナッシュヴィル流のやり方で装飾を加えてくれたんだ。あのトラックに僕が聴き取っていたものが更にふくらまされたんだ”。

## Just Like a Woman(女の如く)

だれもくらしを感じない  
今夜こうして雨のなかに立っていても  
だれでもしている  
ベビーがあたらしい服をもらったことを  
でもちかごろ そのリボンが  
巻毛からおちてるのじゃないの  
いかにも女らしく取るじゃない、ほんとに  
いかにも女らしく股をひらくじゃないの、ほんとだよ  
いかにも女らしく苦しむじゃないの





でも ちいさな女の子のようにもろいんだね

マリーちゃんはわたしの友だちだ

もういちどあいこいこう

いうまでもないことだが

彼女の霧とヒロポンと真珠でもって

ほかのみんなとおなじなことがわかるまでは

ベビーは祝福されないよ

いかにも女らしく取るじゃない、ほんとに

いかにも女らしく股をひらくじゃない、ほんとに

いかにも女らしく苦しむじゃない

でも ちいさな女の子のようにもろいんだね

はじめから雨だった

おれは渴きで死にそうだった

だからここへはいった

きみのおかしからの のろいが傷つけた

だが もっとわるいのは

この胸のいたみ

ここにはいられない

はっきりしてるじゃないか——

おれはふさわしくない

そう信じてる もうやめるときがきた

また会うことがあり

友だちだったと紹介されたら

どうかばらさないでほしい

きみがさかんだったとき

おれが飢えていたなんて

あー きみは女らしくみせかけをする、ほんとに

いかにも女らしく股をひらく、ほんとだよ

そして女らしく苦しむじゃないの

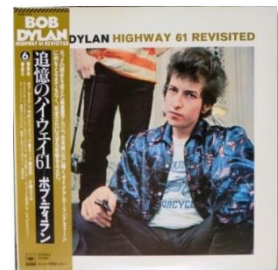
阿部のLPレコード・コレクションから



BRINGING IT ALL BACK HOME

(ブリング・イット  
・オール・バック・ホーム)

1965年3月22日発売



HIGHWAY 61 REVISITED

(追憶のハイウェイ 61)

1965年8月30日発売

でも ちいさな女の子のようにもろいんだね

この〈女の如く〉の耳に快い調子は、まるでアコースティック・ギターとピアノのデリケートな三連音符に乗ったかごのなかで運ばれていくようなディランのひそかにささやく歌唱と共に、彼の論争を多く呼んだ曲のひとつを隠蔽している。1960年代後半の対抗文化による変化に続いたフェミニストによる男女平等化運動の高まりのなかで、ディランは何人かのフェミニストの解説者によって厳しく非難された。この曲でのその対象のあからさまな描写と、「本来の」女性的な特性が、セックスの女らしい特有の作法と共に、貪欲さと訴えるように泣くこと、そして弱々しさだとするコーラスの含意を非難されたのだ。しかしながら、これは曲を文字通りに限定した解釈のように思える。そのメロディー——アルバムの中なかでも最も明白に「女性らしい」——と曲名——古典的な女嫌いの激しい抗議を茶化すように盗用したもの——はもっと反語的な意図を示唆している。また、その意見はこの曲が境界を定めているのは男と女の間ではなく、女と少女の間であるという事実を無視している。それは性差ではなく、成熟の問題なのだ。

この曲はアンディ・ウォーホルのファクトリーのピンナップ・ガールだったイーディ・セジウィックについてのものだと広く——とりわけウォーホルのファクトリーの従者たちのなかでいた彼女の知人たちに——信じられている。イーディは60年代の「時代の顔」として、ニューヨークの社交界を華々しく彩った女性で、65年にディランと短期間の関係を持った。(実のところ、ロバート・マーゴウレフによるイーディの伝記映画『チャオ・マンハッタン』のサウンドトラックには〈女の如く〉が含まれている)。ボストンの上流社交界出身の元モデルだったセジウィックは素晴らしい才能のある人たちに会うことに一身を捧げ、彼女自身の何らかの芸術的才能を伸ばせるかもしれないし、それがだめでも、芸術家の詩神として役に立てるのではないかという希望を持っていた。それゆえに、彼女はウォーホルのアイコンとしてのスーパースターとなり、その後ディランに自分の関心を移した。グリニッチ・ヴィレッジのマクドゥガル・ストリートにあるバー、ケトル・オヴ・フィッシュで彼女はディランに紹介されたのだ。

彼女の興味は純粋に友好的なものではなかったかもしれない。アルバート・グロスマンが彼女のキャリアを発展させることに興味を持っていると噂されていた——だが、イーディがどうしようもない下手な歌手だと明らかになったとき、彼も失敗を最終的に認めざるをえなかった。一方、噂されたディランとイーディの共演映画も話の域を出ることは決してなかった。ウォーホル自身はあきらかに彼女の背信に悩まされると同時に、ディランの彼についての意見にバラノイアになっていた。かなり長い間、彼は(ライク・ア・ローリング・ストーン)のクロム合金メッキの馬を走らせていた外交官は自分自身(そして、それゆえにイーディが曲の主人公)に違いないと信じていたようだ。その歌はディランがイーディまたはアンディに会うよりもずっと前に書かれていたという事実にもかかわらずである。イーディはボブに次第に夢中になっていったが、結局1966年の初めにウォーホルが1、2ヶ月前にディランがひそかに結婚したと知り、大喜びでそのニュースを彼女に告げたときに終わった。彼女は両方のグループからゆつくりと離れていったが、それまでに『ブロード・オン・ブロード』に影響を残していた——彼女は最初のジャケットの内側に載せられた写真の中にいるし(CDのブックレットでは省かれている)、一部の人たちが(彼女についての詩を書いたパティ・スミスを含む)は彼女がアルバムの題名の着想の源だと信じている。そうだったら、この曲で最も頻繁に尋ねられる行も確かに説明される。「彼女の霧、彼女のアンフェタミン、そして彼女の真珠」。これは60年代半ばのニュー・ヨークの麻薬文化では、マリファナ、スピード、覚醒剤に言及していると理解されていた。

彼女は結局1971年にバルビツール剤の過剰摂取で死んだが、それまでの間に〈女の如く〉はディランの最も人気の高い曲のひとつとなっていた。皮肉なことに、彼の楽曲出版社が彼の作品のカヴァー・ヴァージョンの殺到から印税を集めるのにどんどん忙しくさせられていた——1965年9月にはア

(次ページへ続く)

メリカのトップ40には8曲もの彼の曲が入っていて、半分はカバーだった——ときに、〈女の如く〉は他のアーティストからかなりの関心を集めた『ブロード・オン・ブロード』の唯一の曲だった。また、これはそれから20年間にわたってディランが最も頻繁に歌った曲にもなった。しかしながら、この曲の2行目が変更されたのが正確にはその時期のいつなのかは定かではない。録音された「今夜は雨の中で迷子になっている」が『ボブ・ディラン全詩302篇』に収録された版のあまり情景を喚起させない「今夜僕が雨の中に立っている」に変えられたのだ。『バイオグラフ』の注釈の中で、ディランはこの曲を巡業中にカンサス・シティのホテル「かどこか」で書いたとろ覚えで回想している。それは前年の感謝祭の日で、誰かの家での夕食に招待されたのを断ったのだ。

以上歌詞解説は後出『ボブ・ディランの60年代』より

### ディランのロックの記念碑的作品

『ブロード・オン・ブロード』は、『追憶のハイウェイ61』につづく、ディランの7枚目のアルバムである。そして、ディランにとっては初めてのダブル・アルバムであった。さらに、『プリング・イット・オール・バック・ホーム』につづいて、いわゆるフォーク・ロックの形がもっともトータルに提示された、一番ロック的なアルバムということもできるだろう。

録音されたのは1966年の1～3月で、この前後は、ディランは演奏旅行に多忙だった。おそらく彼のアーティストとしてのキャリアの中で一番スケジュールに追われた時だったといえるだろう。映画『ドント・ルック・バック』をとったのもこのころだし、私生活では前年の暮に結婚しており、そしてこのアルバムが5月ごろ発売されてから幾らもたない7月29日に、ウッドストックの自宅の近くでモーターサイクル事故を起こし、瀕死の重傷を負ったのだった。その結果、68年はじめに『ジョン・ウェズリー・ハーディング』を発売するまでの2年半というもの、大衆とマスコミの前から完全に姿をくらましてしまった。

この2年半の活動中止は、やはりディランのキャリアに、重要な句読点をつけた。再起後の彼は、カントリーっぽいサウンドからさらにポップな方向へと変身してファンを戸惑わせる。もちろんディランの変身はそれ以前から珍しいことではなかったし、とくに1965年の時点でのフォークからロックへ、プロテストからラブ・ソングへの転換は、もうウンザリするほどの論議の的となってきたが、いまにしておもえば、デビュー・アルバムからこの『ブロード・オン・ブロード』までのディランは、変化はあったにしても、ひとつの流れとして連続感があった。ほんとに变り身のあざやかさが唐突とみえるようになったのは『ジョン・ウェズリー・ハーディング 1』以降ではないだろうか。もちろん、これからまた何年か経てば『ナッシュヴィル・スカイライン』～『セルフ・ポートレート』～『ニュー・モーニング』といったアルバムにも、ひとつの流れが認められるようになるのかもしれないけれども……。

とにかく、『ブロード・オン・ブロード』が制作されてから7年後にあたるいま、このダブル・アル

(次ページへ続く)

バムは、ディランにとってひとつの時期をしめくくった記念碑的作品というふうに見えるのである。

### ディランとロックとのかかわり

一番ロック的なアルバム、ということを先ほど書いたが、こういう見方を、表面的であるとしりぞけてしまうわけには行かないと思う。

ジョーン・バエズがディランに「私がフォークの女王様なら、あなたはロックの王様ね」と言った、とは広く知られたエピソードだ。その真偽のほどはわからないが、ディランにとって結局ロックとは何だったのだろうか、という素朴な疑問が、このアルバムを聞いているぼくの頭をふとかすめる。

アンソニー・スカデットの『ボブ・ディラン』（小林宏明訳・二見書房刊）は、かつてディランとかかわりのあった人たちの談話をたんねんに集めて編まれたディラン伝で、ハンター・デヴィスのビートルズ伝と肩をならべうる労作だし、ぼくも教えられるところが多いが、それまでの通説をひっくり返そうとする姿勢が露骨すぎるように思える個所もある。それだけに、どこまで信じていいのか、ときどき迷ってしまうのだが、この本に描かれた少年期のディランは、完全なロックンロール・クレイジーの姿である。もしそのとおりだとすると、彼がフォーク・ソング、プロテスト・ソングをやったのは、成功のための手段にすぎなかったか、せいぜい気まぐれということになってしまう。そうするとむしろ、ロックこそ本来のディランの音楽で、ディランにとってフォーク・ソングとは何だったのだろうか、という逆の疑問さえ出てきってしまうわけだが、むろんこれはあまりにも極端な見方であろう。

アルバム『ブロード・オン・ブロード』は、ディランとしてはもっともロック色の濃いアルバムだとしても、ここに聞かれる音楽が、単にロックという言葉でだけ片づけられるものでないことは、誰でもすぐに気づくはずだ。

伴奏ミュージシャンの名前は、ジャケット内側の下端に列挙してあるが、アル・クーパー、ジェイミー・ロバートスン、ケニー・バットリー、チャーリー・マッコイ、ウェイン・モスなどいまではわれわれになじみ深い名前がみえる（ちよっと意外な人にジョー・サウスがいる）。こうした顔ぶれで、その気になればもっとハードなロック・アルバムも作れたはずだ。だが『ブロード・オン・ブロード』の楽は、アル・クーパーともジェイミー・ロバートスン（ザ・バンド）とも明らかに異った、ボブ・ディランの体臭をはつきりと感じさせ、ロックであってロックでない、ディラン・ミュージックとか呼びようのないものになっている。

結局、言えるのは、ディランにとってフォークもロックも自己表現のためのさまざまな素材のひとつでしかなかったのではないか、という単純な真理であり、『ブロード・オン・ブロード』の音楽が、ほかのどのロック・ミュージシャンとも似ていない、ふしぎにザラザラした手ざわりをもって

いるという、そののところにこそ、ディランの魅力があるのだと思う。

解説／中村とうよう

アルバム『追憶のハイウェイ』発表後、ボブ・ディランは「寂しき4番街」、「窓からはいだせ」と相次いでシングルを発表し、ロック・シンガーとしての新たな姿勢を見せはじめていた。もっともその2枚のシングルは、「ライク・ア・ローリング・ストーン」ほどの成功を納めるまでにはいたらず、続いて発表された「スーナ・オア・レイター」も替りばえのするものではなかったが、とはいえそれまでに発表されていたアルバムはベスト・セラーを続け、さらに公演旅行もひっきりなしに行なわれていたのである。そんな公演旅行の最中、新しいアルバムのレコーディングが、それもニューヨークからナッシュヴィルに場所を変えて行なわれはじめた。そして制作されたこのアルバム『ブロード・オン・ブロード』は、前作同様ロックン・ロールを中心としたものであったが、わずかに音楽性を変え、さらにはサウンド作りにも変化を見せていた。そのなによりもの特徴は、サウンド作りにおいては、起用されている楽器などは前作とほとんど変わらないのにもかかわらず、粗野であららしくむきだしのサウンドで固められていた前作『追憶のハイウェイ61』などにくらべれば無駄な音は省かれ、要所要所がしっかりと固められた、まとまりのある、いくつかの作品では洗練さが強調されたサウンドを作り出していたのである。さらに音楽性の変化についていえば、ディランらしい独特の個性を持つロックン・ロール・ナンバーやブルース、リズム&ブルース的なものに加え、これまでになくポップな感覚を持ったアコースティック・ロック的な作品が目立ち、それらの中にはすでにカントリー・ロック的なものをわずかに匂わせるものを含まれていたのである。

もっとも「スーナ・オア・レイター」（この曲はニューヨークで後にザ・バンドと名乗ってデビューすることになったホウクスをバックレコーディングされたものだ）、アイ・ウォント・ユウ」、「我が道を行く」などは「ライク・ア・ローリング・ストーン」の流れを組む、ディラン独得の味わいを持つロックン・ロール・ナンバーであり、ワイルドな演奏が聞かれた。また、ディキシランド・ジャズ・バンド風なブラスと、奇妙なバック・ヴォーカルがフィチャーされた異色の作品「雨の中の女」、さらに「ローランドの悲しい目の乙女」もそれに通じるものであった。

ところが、そうしたディラン独特のロックン・ロール・ナンバーとともに、ハードな演奏を聞かせていたブルース、リズム&ブルースをルーツとした作品の多くは、ここではそのサウンドを変え、「プレッシング・マイ・タイム」、「ヒョウ皮のふちなし」、「5人の信者」でも明らかにように、シンプルでより田舎的な素朴さ泥くささのあるものとなり、また「時にはアキレスのように」は、いま



(次ページへ続く)

にもドゥワーのコーラスが登場してきそうなものになっているのである。

それらとともに注目されるのが、「ジョアンナのヴィジョン」、「メンフィス・ブルース・アゲイン」、「女の如く」、「フォース・タイム・アラウンド」などの、「シー・ビロングズ・トゥ・ミー」系列に入る。アコースティック・ロック的な作品がよりホップ化され、すでにカントリー・ロック的な匂いがかがせていたものもあった。

そうしたサウンドや音楽性の変化は、むしろナッシュヴィルにレコーディング場所を移し、さらにはナッシュヴィルのミュージシャンをバックにしはじめたことに大いに関係のあることであり、改めて、ボブ・ディランとナッシュヴィルとの関係がクローズ・アップされてくるのであるが、とはいえ何故にディランがニューヨークからナッシュヴィルに向ったのかについてはさだかでない。

たとえば、トム・ウィルソンに替ってプロデュースを担当することになったボブ・ジョンストンは、もともとはナッシュヴィルで活躍していたことなどから、彼がディランを引張っていったのではないかとも考えられる。しかし、それ以前にボブ・ディラン自身がナッシュヴィルでのレコーディングを望んでいたのだとも考えられないことはないのである。たとえば、ローリング・ストーン紙に載せられたジャン・ウェナーのボブ・ディラン・インタビューにおいて、ザ・バンド(つまりホウクス)をバックに起用する前には、リッキー・ネルソンのバックを長い間務めてきたジェイムス・バートンとジョー・オズボーン、(そのうちジェイムスは、南部的な泥くささを持つカントリー系のロックン・ロール・ギタリストとして知られ、最近ではエルヴィス・プレスリーのバックを務めている)。それにジョニー・リバーズ・バンドのミッキー・ジョーンズを起用するつもりでいたという発言であり、強引すぎるかもしれないがジェイムスならではのギターを求めていたとしたのなら、それは明らかにその頃からカントリー・ロック的なものあるいは南部的なサウンドを求めようとしたのではないかとも考えられるのである。そしてその後釜として南部志向の強いロックン・ロール・バンドのマイケル・グレイホイクスを起用したことも興味深い。また、『ディラン、風を歌う』(三井徹訳・晶文社)の中で指摘されているエルヴィス・プレスリーとの共通性(プレスリーはそのレコーディングのほとんどをナッシュヴィルで行ってきている)を考えあわせれば思い浮かぶことである。むしろエルヴィス・プレスリーに限らず、ジェリー・リー・ルイスやジョニー・キャッシュと、ディランに関係のあったロックン・ローラーにもあてはまることだ。そして、ロビー・ロバートソンのギターがフィチャーされているブルース・ナンバーが、そうした南部的ともいえる土くさく泥くさいサウンドを作り出していることや「時にはアキレスのように」などのわずかにノスタルジアを感じさせる作品の存在はおもしろく、すでにこのアルバムをきっかけとしてディランの音楽的な背景へのフィード・バックがはじまりかけていたともいえるのではないだろうか。

解説／小倉エージ

アンディ・ギル著・五十嵐正記

## 『歌が時代を変えた10年／ボブ・ディランの60年代』

(2001年3月8日・シンコー・ミュージック刊)

1963年5月の『フリーホイーリン・ボブ・ディラン』の発売から1964年1月の『時代は変わる』の発売までの数ヶ月という短い間に、ボブ・ディランはアメリカ音楽において最も熱い注目を集める財産となり、以前はほとんどが大学生だと見られていたフォーク音楽聴衆の領域を広げていた。彼の3枚目のアルバムは彼を誰も異議の唱えられないプロテスト音楽の王様の座につかせるが、彼は王冠を戴いていたにもかかわらず、そういった種類の曲、名声全般、そして運動のいやいやながらの指導者としての自分自身の地位のどれもに深刻な疑念を抱いていた——『時代は変わる』を録音していたその年の11月にジョン・F・ケネディ大統領が暗殺されたとき、その疑念は一層増した。その時点から先、曲の中でも、実物の本人も、彼をつかまえることはもっとむずかしくなる。「注目されるというのは重荷にもなる」と彼は後に説明した。「イエスがはりつけになった理由は自分に注目を集めたからさ。だから、僕はしょっちゅう姿を消すことにしたんだ」。

私生活にも重大な変化が起こる。モンタレー・フォーク・フェスティバルの後のジョーン・バエズとの最初の密通の後、彼らがどんな関係なのかについての噂があっという間に広まり、既に緊迫していたスーズとの関係に更なるストレスを加えた。だが、当初スーズは彼のエゴがバエズの名声に充分に対処できるのか疑っていた。「ボビーはジョーン・バエズを愛せないわ」と彼女は友人たちに言った。「彼は誰だろうがあんな大物は愛せない」。

どちらの側にも、この新しい親密な関係はたぶんもっと熱情的な何かと同じくらいに、音楽活動における利点を計算して始まったのだろうが、後にはもっと感情やセックスの方のつながりに開花する。ディランにとって、彼女の評判と観客数の両方ともが彼より大きいことを考えると、フォークの女王と組む利点は明白だった。バエズは曲を聴いたときに彼のソングライティングの非凡な才能を認めた。彼女がそれを聴きとったのは、ディランが出版社ウィットマークのために録音していたデモのアセテート盤をマネジャーに聴かされたときだった。これは同世代の他の連中を凌駕する才能の持主だと彼女は理解した。「彼はそれまでに書かれたことのない曲を書く」と彼女は後に言った。「優れたプロテスト・ソングはあまり多くない。彼らはいつもやり過ぎるのね。ボビーの曲の美しさはその控え目なところなのよ」

1963年7月26～28日の週末に開催されたニューポート・フォーク・フェスティバルは実質的にボブ・ディランの戴冠式で、彼がその集会を支配していた。他の出演者たちが彼の曲を取り上げて歌い、常に名前を口にしていたし、彼自身も数回出演した——金曜夜の

単独出演での持ち時間の後にも、出演者が集って〈勝利を我等に〉を歌ったアンコールに加わった。土曜日のトピカル・ソングのワークショップにも、そして土曜日にはジョーンの出演中に客演して〈神が味方〉をデュエットした後、また皆が集って今度は〈我が祖国〉を歌ったアンコールにも登場した。彼の名前が口にされる度に観客から拍手が起こるほど、観客は新しいスターにしきりに称賛を与えがっていた。一方、楽屋や若手の歌手仲間たちが滞在していたヴィクトリー・モーターでは、ディランはスターらしいふるまいを身につけ始め、荒くれ者の友人ジノ・フォアマンが持ってきた革の鞭を弄びながら、ぶらつき歩いていた。その姿はまるで彼が古老グループに鞭をふるって、そのジャンルの支配権を奪い取ったかのような感じだった。

スーズに大変悲しい思いをさせたのだが、フェスティバルの後、ディランはジョーン・バエズの夏のツアーでの特別ゲストの申し出を受ける。その際にグロスマンは主役のスターよりも多い出演料を保証させた。彼らの関係の状態について繰り返して言い争いをした後、遂にスーズは4丁目のアパートから引っ越していったが、その直後の4月28日にジョーンとボブはワシントン大行進に参加した。マーティン・ルーサー・キング牧師が名高い「私には夢がある」演説をしたのはこの日である。ボブはニュー・ヨーク州北部のウッドストックに近いアルバート・グロスマンの住まいを何度か訪れて自分を慰めていた。数週間後、カメルンのジョーンの家で更にゆっくりと過ごし、読書、曲作り、水泳の日々を送った。その光景は牧歌的に思えるだろうが、後に彼が明かしたところによると、彼らはあまり多くの話をする事はなかった。その後の数年も比較的親密な付き合いを続けたが、間もなく彼ら是一緒にいるには性格が違い過ぎると悟った。ボブにとって、ジョーンはお上品な真面目一方の善良だった女だったし、彼女としては、1964年から1965年にかけての曲に入り込み始めた意地の悪い調子に耐えられなかったのだ。「私は人を理解するなかなかの感覚があるんだけど、他の人たちとは違って」とジョーンは30年後に説明した。「彼のことは全く理解できなかった。ほんの少しよね」。

しかしながら、ディランに関する見解を誤ったのはジョーン唯一人ではなかった。「世代の代弁者」は、次々と各雑誌が押し付けるこの新しい地位に実のところ義務以上のものがあると理解し始めた。この政治団体が、あの政治団体が、次々と彼の時間を自分たちのものだとして主張してくるのだ。7月、友人のセオドア・ピッケルに説得されて、ミシシッピ州グリーンウッドへ飛び、学生非暴力調整委員会(SNCCまたは「スニッケル」)が組織する、州内の黒人投票者を増やすための投票者登録推進運動で歌った。ディランは自分が信じる運動に力を貸せたことを喜び、地元の農場労働者の人びとともとてもうまくつきあえたのだが、それが初めてではないとはいえ、公民権運動への責任について彼に説教しがっているよう

(次ページへ続く)



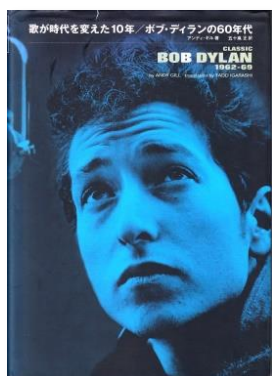
な運動家たちに囲まれている自分を発見した——そもそも彼がそこまで行ったことだけでは貴務を果たしていないかのように！ ニュー・ヨーク州フォレスト・ヒルズでのジョン・バエズのコンサート終了後、緊急市民的自由委員会(ECLC)の委員長であるクラーク・フォアマンが催した打ち上げパーティーの席でも、彼は引き留められて、作家の社会的責任についての或る脚本家の演説の録音を聴かされた。そんなもの誰が必要なんだ？

彼が世の中で最もやりたいこと——曲を書いて歌う——が次第に、他の人びとが自分たちにも言い分があると感じる何かとして見られるようになっていた。加えて、ディランはすごい託宣者とみなされ始めていた。まるで彼がすべての答えを持っているかのように——それは確かにうれしくなることだったが、同時にいらいらもさせられた。

「私には人を理解するなかなかの感覚があるんだけど、他の人たちとは違って、彼のことだけは全く理解できなかった。ほんの少しもね」ジョン・バエズ

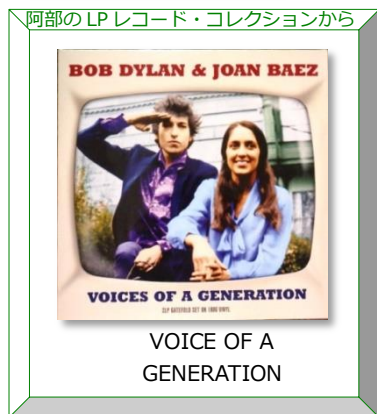
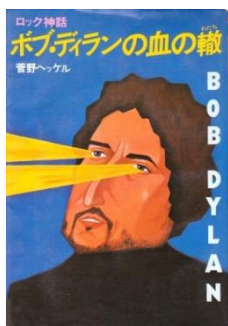
アンディ・ギル 著・五十嵐 正訳『歌が時代を変えた10年

／ボブ・ディランの60年代』(2001年3月8日・シンコー・ミュージック刊)



下左：菅野ヘッケル『ロック神話 ボブ・ディランの地の轍』  
(昭和 53 年 2 月 15 日・住宅新報社)

下右：三井徹訳・編『ボブ・ディラン語録』  
(昭和 48 年 3 月 20 日・ブロンズ社)



ANY DAY NOW→  
ジョン・バエズ、  
ボブ・ディランを歌う



ANY DAY NOW ジョーン・バエズ、ボブ・ディランを歌う  
(1969年1月・キングレコード)

## (WRITTEN BY: BOB DYLAN)(中西千鶴訳)

Seems like only yesterday                   ほんの昨日のことのように  
I left my mind behind                         僕は忘れずにいる  
Down in the Gypsy Café                     ジプシー・カフェに  
With a friend of a friend of mine          僕の友達の友達と一緒にいた時のことを  
She sat with a baby heavy on her knee   彼女は重そうに赤ちゃんをひざにのせていた  
Yet spoke of life most free from slavery   いまだに奴隷制から解放された話をしていた  
With eyes that showed no trace of misery   彼女の目に悲嘆の痕跡はなくて  
A phrase in connection first with she I heard   彼女の言っていた意味深な言葉を聞いた  
That love is just a four letter word       「LOVE なんてただの４つのアルファベットの羅列」

Outside a rambling storefront window  
Cats meowed to the break of day  
Me, I kept my mouth shut, too  
To you I had no words to say  
My experience was limited and underfed  
You were talking while I hid  
To the one who was the father of your kid  
You probably didn't think I did, but I heard  
You say that love is just a four letter word

店先の広い窓の外では  
猫たちが夜明けに向かって鳴いていた  
僕は黙ったままで  
あなたにかける言葉もなく  
僕の経験なんてとるに足りないから。  
僕が黙っている間、  
あなたは子の父親である人と話していた  
あなたが、まさか僕が聞いてるとは思わなかったでしょうが、  
あなたは「LOVE」なんてただの４つのアルファベットに過ぎないと言っていたね。

I said goodbye unnoticed 僕は気付かれぬようにさよならと言ひ、

|                                                         |                          |
|---------------------------------------------------------|--------------------------|
| <i>Pushed towards things in my own games</i>            | 今日のことを胸にしまう。             |
| <i>Drifting in and out of lifetimes</i>                 | 生涯放浪し、                   |
| <i>Unmentionable by name</i>                            | 名も名のれず、                  |
| <i>Searching for my double, looking for</i>             | 自分の代役を探し続け、              |
| <i>Complete evaporation to the core</i>                 | 芯まで完全に消失してしまった           |
| <i>Though I tried and failed at finding any door</i>    | がんばったけど、何の道もひけなかった       |
| <i>I must have thought that there was nothing more</i>  | 「LOVEは4つのアルファベットに過ぎない」   |
| <i>Absurd than that love is just a four letter word</i> | なんてばかばかしい                |
| <i>Though I never knew just what you meant</i>          | あなたがどういう意味で言ったかなんて知り得ないが |
| <i>When you were speaking to your man</i>               | あなたが男に話していた時、            |
| <i>I can only think in terms of me</i>                  | 僕なりの観点でしか考えられなかったが、      |
| <i>And now I understand</i>                             | 今になりわかる                  |
| <i>After waking enough times to think I see</i>         | 考えるために十分な時間歩いた後、僕は気付く    |
| <i>The Holy Kiss that's supposed to last eternity</i>   | 永久に続くと思われた聖なるキスは         |
| <i>Blow up in smoke, its destiny</i>                    | 煙にまかれて爆発する               |
| <i>Falls on strangers, travels free</i>                 | その宿命は他人をも巻き込み、自由に突き進む    |
| <i>Yes, I know now, traps are only set by me</i>        | そう、僕はようやくわかった            |
| <i>And I do not really need to be</i>                   | 畏というのは単なる自業自得なのだ         |
| <i>Assured that love is just a four letter word</i>     | そして、                     |
| 「LOVEは単なる4つのアルファベットに過ぎない」なんてことを、納得しなくてもよかったんだ。          |                          |
| <i>Strange it is to be beside you</i>                   | あなたのそばにいるなんて不思議だね        |
| <i>Many years and tables turned</i>                     | 年月をかけて、人生は逆転した           |
| <i>You'd probably not believe me</i>                    | あなたはおそらく僕を信じないだろう        |
| <i>If I told you all I've learned</i>                   | もし、僕が学んだことを話してもね。        |
| <i>And it is very, very weird indeed</i>                | どうせ、本当におかしな話だし。          |

To hear words like forever plead

船が僕の心を走り抜けるから、僕は対峙せねばならない

Those ships run through my mind, I cannot cheat

それはまるで、教師の顔を真正面から見るようなもの

It's like looking in the teacher's face complete

僕はあなたに言うことはないけれど、

I can say nothing to you but repeat what I heard 僕が聞いたことをくりかえし言うよ

That love is just a four-letter word.

「LOVE は単なる 4 つのアルファベットにすぎない」と。



『ドント・ルック・バック  
／ボブ・ディラン 1964-65』

(1994 年 10 月 13 日

・ブルース・インターアクションズ発行)

4～23 頁の写真は同書より借用



(前略)「愛はちょうど4つの文字のよう」は、今月(1992年9月)に至るまでディランのヴァージョンが発表されていないのだが、それでもバエズが好んで歌い彼女の代表曲のひとつとなったもの。「愛なんて四文字言葉だぜ」と吐き捨てるように言う歌詞は、いかにもバエズの個性とはミスマッチするようだが、バエズはディランのこうした作風にひかれていたに違いなく、この曲はバエズのディランに対する思い入れを集約しているように聴こえてしまう。

実は前述の映画「ドント・ルック・バック」に、バエズがホテルの部屋で、ディランを前にこの歌を歌っているシーンがある。ディランはこの曲を完成させるのを途中で投げ出したようで、バエズが「次の歌詞を教えてよ」というと、「まだ出来ていないんだ」とディラン、「8回も書き直していたくせに…私がいつかレコーディングするわ」といったやりとりが収められていた。バエズにとってこの曲は、ディランとの思い出の曲なのだと思う。

とにかく本作でのバエズは、誠実な歌いっぷりに徹している。それはディランがサラのことを歌った長尺の「ローランドの悲しい眼の乙女」を、淡々とフル・コーラスにわたって歌うあたりにも明らかだ。またバエズの前の恋人、スーズ・ロトロにあててディランが書いたとされる「スペイン革のブーツ」でのバエズにも、同じ誠実さを感じる。それらはバエズの心にディランとの過去の関係が影を落としているからではなく、同時代を生きた友人として、一つの時代を共に作ったフォーク・シンガーとしての共感から生まれたものだろう。このアルバムは希代のフォーク・シンガーであり、ソングライターであり、そしてロックの時代を生き抜こうとしていたディランへ宛ててバエズが贈った、最大級の讃辞なのである。

(宇田和弘)

**補足** ボブ・ディランとジョーン・バエズの関係については前号で取り上げたアンソニー・スカ  
デュト著『ボブ・ディラン』p.297-326の「ジョアンナのヴィジョン」の項で、ジョーン・バ  
エズがインタビューに答える形で語っており、興味深いので冒頭のみ引用します。

### ジョアンナのヴィジョン

当時のいろいろな出来事を思い出す時、ジョーン・バエズは心から楽しそうに笑う。自分  
とボブが、とても親しかった頃の思い出なのだ。ニューヨーク・シティのあるホテルの一室  
で、彼女は北欧風にしつらえた、モダンな椅子に腰かけていた。両腕でかかえたひざを顎  
にあて、ブルーのデニム、ブルーのストライプが入ったボロ・シャツを着、髪は以前よりぐっ  
と短くなっていた。そんな彼女を見ていると、いままでに見たどの写真よりよほど魅力的だ  
と、またしても思ってしまう。黒い瞳を輝かせながら、彼女は時どき笑う。その微笑みは稲  
妻のように明るくパツと広がる。あの頃の、なにか心の痛む出来事を思い出す時、彼女は  
真剣な顔になる。そしてなにか楽しかったことを思い出す時、あるいは、ジョーンとデイヴィ  
ッド・ハリスの間にできた男の子で、まだ6か月のガブリエルが乳児用のベッドのなかでむ  
ずかると、あの微笑みがまた戻ってくる。

過去において、自分はボブのことを滅多に語らなかった、と彼女は言う。なぜなら、「ボビ  
ーのような有名人の代理みたいな顔をして、そのお陰で食べているような人があまりに多  
いから」だ。そしてまた、「ボビーへの忠誠から」でもある。けれども、一旦当時のこと、つま  
りディランと一緒にいた頃を懐かしく思い浮かべはじめると、彼のことを喋る人は、だれもそ  
うして喋りちらすことが好きなのになにがいないと悟りました。私たちの人生のなかには、もっ  
ともらしく聞こえることなんか、ほとんどないのですから」

そのホテルの一室で、私たちは約3時間にわたって語り合った。

——はじめてボビーに会った時のことから始めましょうか。

ジョーン はじめて会ったのはヴィレッジだったと思います。彼の名がまわりでささやかれ  
ているのが聞こえましたが、あれは(ガーズ・フォーク・シティ)でのことでした。彼は、ウディ  
に捧げる自作の歌をうたっていて、そして私を完璧に打ちのめしたんです。あの時の彼を  
思い出してみると、背は約5フィートぐらいで、ちいちゃくて、本当にちいちゃくて、例のお  
かしな帽子をかぶっていました。彼を聴くために、2、3回引き返したように思います。  
まったく彼には人を仰天させるようなところがありました。私はすっかり打ちのめされ、完全  
に夢中になりました。「ステキだわ」と思ったものです。彼のスタイル、そして彼の眼、それ  
にあの全体の神秘感。とにかくなにもかもがよくて、私は何日間も彼のことを考えました。

(次ページへ続く)

私は驚いていましたが、それにもまして幸福でした。あんな才能を持った人もいるのか、ということを知って、本当に幸せな気分になったんです。私は天才といわれる人たちにはまったく弱くて、そんな天賦の才を持った人に出会えると、まったく興奮してしまうのでした。

——その最初の晩に、彼と会って話をしたのですか。

ジョーン その晩は彼の方からやってきました。だれかが、「お前はジョーンに会うべきだよ」と言ったのです。それで彼がやってきたのですが、私には言えることがありませんでした。「変ってる」(ファー・アウト)とか「ビューティフル」とか私が言うと、ボビーは口のなかでなにかつぶやきました。「やあ、どうも」とかなんとか。なんと言ったのかわかりませんが、なにしろ唾かと思うほど口をきかなかったのです。それだけでした。

——ディランとの初期、つまり最初の頃の話をしてくれませんか。あなたがたは恋人同士だったのですか。

ジョーン おそらく大抵の人にとってもそうでしょうけれど、ボビーは常にこちらの手が届かないようなところにいました。だから、どういう順序で親しくなったかは思い出すことができません。ぼんやりとではありますが、あるパーティに出席したことは覚えています。彼はちょうど『神の加護で』を書きあげたところで、私は、こんな曲を書いている人もいるのか、と信じられない気持ちでした。彼には神秘的な魅力が沢山あり、また他人にはわからないところが沢山ありました。けれど可愛くて、愉快で。彼のユーモアのセンスときたら、本当に素晴らしいものなのです。もう本当にひどくおかしくて、しかもシニカルなのです。そしてどんどん出来がよくなって、うまくなっていきましたね。

——あなたのコンサートに、あなたは何度もボブをゲストとして引っ張りだしたのでしたね。あなたがたは相当親しい間柄になっていたのですか。

ジョーン それほどでも。私はみんなに彼を聴いてほしかったのです。私たちはお互いに好意を持っていたと思うし、私の方では本当に彼を愛していました。私は彼の面倒をみたかったし、彼にうたわせてやりたかったのです。つまり、髪をとかしてやり、歯をみがいてやり、彼をステージにあげて……



## 南押原～羽生田ハイキング ～判官塚古墳・羽生田古墳群と社寺城跡めぐり～

11月13日（日） 天気・はれ

鹿沼学舎主催の催しに参加し、鹿沼の南部から壬生の北部にかけて点在する古墳をめぐりました。南押原コミセンに集合し、車2台で羽生田小学校に移動し、まずは羽生田城跡を見学しました。

羽生田城は文亀年間（1501～04）に壬生綱重によって築城され、鹿沼城と壬生城の中間に位置し、壬生城の支城として機能しましたが、同氏の滅亡とともに廃城となりました。現在、本丸・二の丸跡は羽生田小学校になっています。その西側三の丸と見られる林内に入ってみました。明らかに堀があって、背後に高い土塁が続いています。その土塁に登ってみると、その向こうには、土塁に並行してさらに深い堀が続いているのでした。

小学校の北側、北の丸と推定されている場所には歓喜院（真言宗）があります。東側から参道を進むと奥に立派な楼門（町指定文化財）が建ち、さらにその奥にはカヤの古木が天高く聳えていました。

いよいよ古墳群をめざして北に向かって歩き始めました。途中、八幡神社に立ち寄りしました。道ばたにはすでに春の花、しそ科のホトケノザが咲いています。道しるべに従って進んで行くとこんもりとした森が見えます。灌木に覆われていてわかりませんでしたが森の中をのぞいてみて、やっと古墳であることがわかりました。桃花原古墳は7世紀前半3段に造られた直径63m、高さ5mの円墳です。来た道をいったん戻って東の方向へ歩き、低地に降りて用水路を遡りました。山に突き当たり、左（西）に進み、山に登ります。茶臼山古墳は6世紀後半、2段に造られた全長91mの前方後円墳。堀、土塁を含めると全長140mという大きなものです。国指定史跡。

同じ道に戻って車道を東に進むと左に神徳大神宮を見てさらに前進します。ほどな



歓喜院楼門

く古墳の入口があってひと登り。富士山古墳は鹿沼の池ノ森方面から南北に延びてきた丘陵の先端部に、2段に築成された大型の円墳です。6世紀後半。国内最大級の家形埴輪が確認されています。

羽生田小学校まで戻り、今度は車で見学ポイントを巡ることにしました。愛宕神社に車を置いて、神社の

境内や北赤塚一里塚(判官台一里塚)の近くにある石碑群を見て回りました。判官塚古墳はこれまで見てきた古墳のように灌木に覆われておらず、サクラが植えてある程度で、遠くから見ても古墳とわかります。古墳の斜面にはニラが、南側の平地には三月菜(鹿沼菜)らしい青菜が青々と生い茂り、食べ頃です。

再び車に乗って、磯山神社に参詣し、南押原コミセンに戻りました。コミセンには「千葉県三記念館」が併設されています。同館はこれまで児童館に併設されていましたが、このたび南押原コミセンの新築に伴い、福田純一さんが中心となって整理、再編され、コミセンに併設して開館しました。千葉県三関係の著書の初版本や写真、その他の遺品が展示され、詳しい解説が添えられています。



判官台一里塚にて

#### ✿ 参加者

相田弘巳、赤羽根幸子、稲葉幸枝、金子一郎、神山敦子、嶋谷美江、西澤美智子、福田純一、阿部良司(計9名、敬称略)

#### ✿ 見た植物

(針葉樹) カヤ、(常緑つる植物) キヅタ(蕾)、  
(落葉樹) アオハダ、イチヨウ、イヌシデ、カマツカ、クサギ、  
ケヤキ、ゴンズイ、ニシキギ、マユミ(実)、ヤブデマリ、ヤマウルシ、ヤマザクラ、  
ヤマモミジ、リョウブ、(草の花) オノノゲシ、セイヨウタンポポ、ヒメジョオン、  
ホトケノザ(写真)、リンドウ、(その他の草本) アザミ(の仲間)、  
カラスウリ(実)、ツタ、ニラ(実)



#### ✿ 見かけた蝶

キチョウ、ツマグロヒョウモン(写真→)

### 童話作家千葉省三の郷里榆木

鹿沼市榆木

東武日光線 榆木駅下車

童話作家千葉省三は、栃木県で生まれ育った純粋の栃木県人である。その郷土ものといわれる作品は、栃木の田舎を舞台とし、方言を喋る子どもたちが活

(次ページへ続く)



躍するものである。

童話を発表した大正から昭和にかけて絶讃されたが、戦後特に再評価の声が高まって賞を受けたり、全集が発行されたりしている。



省三は明治25年(1892)12月2日に母の実家篠井村(現宇都宮市)で生まれた。父は亀五郎といって小学校の教師であった。父が今市の吉沢小学校長となったので、省三は6歳のとき同小学校に編入学した。

明治32年(1899)、父は楡木小学校(現鹿沼市)の校長になったので、転校し、以来約15年ここに住んだ。したがって郷土物といわれる童話は楡木を中心に描かれている。

明治38年(1905)、県立宇都宮中学(現宇都宮高校)に入学した。この年の遠足を書いた紀行文が同窓会雑誌に当選した。その選者が5年生の半田良平(後の歌人)であったので、この縁故が作家になることへつながったのである。

宇都宮中学卒業後は、病気のため上級進学をあきらめて、母校楡木および磯の小学校で3年ほど教員をした。

大正3年(1914)半田良平を頼って上京し、その紹介で出版社につとめた。大正6年(1917)25歳で結婚し、コドモ社に入り雑誌の編集に従った。こども雑誌を作りながら自分でも「日本の土に根ざした童話」を、と考えて作ったのが、いわゆる郷土物のはじまりである。大正14年(1925)33歳の時発表された「虎ちゃんの日記」は、生き生きとしたほんとの子どもの姿を書いたというので、多くの読者を魅了し、児童文学界を驚かした。処女童話集『トテ馬車』にひきつづいて『葱坊主』『地蔵さま』『竹やぶ』等を発表した。しかし戦争による社会情勢の変化は、だんだん純文学運動を困難にしていっていった。自分で出していた『児童文学』が廃刊になった昭和12年(1937)あたりから書かなくなってしまう。そして長い沈黙の時代を送った。

しかし戦後、再評価の声は高まり、昭和42年(1967)には、第2回児童文化賞を受賞した。この年から『千葉省三童話全集』(全6巻、岩崎書店)が刊行され、これに対して、第15回サンケイ児童出版文化賞の大賞が授けられた。昭和47年(1972)には名著複刻版として『トテ馬車』が出た。

これら名声のうちに、悠々自適しておられたが、昭和50年(1975)10月13日、心不全のため小平市の病院で逝去された。83歳であった。

栃木県文学散歩の会『栃木県の文学散歩』(昭和54年8月1日・栃の葉書房刊)

✿ 秋のいろどり写真館



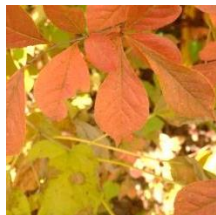
クサギ (実)



アオハダ



ヤマモミジ



カマツカ



ニシキギ



ツタ



ヤマウルシ



カラスウリ



イチョウ



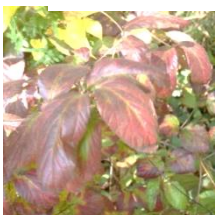
ケヤキ



マユミ (実)



ヤマザクラ



ヤブデマリ



ゴンズイ



リョウブ



ニラ



← 桃花源古墳、↑ 茶臼山古墳、富士山古墳 →



## 自然観察クラブ・新春学習会報告

1月21日（土）夜

1月21日、居酒屋「枝」にて新年会を兼ねた、実は学習会が開かれました。石崎氏にはメインメッセージをお願いしました。スマホを所持しているほとんどの人が無駄に高額の使用料を払わされている。インターネット関連会社を経営されている石崎氏はスマホを使わず、通話専用としてガラ携1台、タブレット端末を1台持っているのみ。ただしそのタブレット端末には通信機能があり、携帯電話の使える場所であれば、どこでもインターネットに接続できる。これを使いはじめたら、見やすさから言ってもうスマホは使えない。これを使うにはそれなりの契約が必要であるが、キーワードは「シムフリー」。それはスマホでも言えることである。

石川さんからは、鹿沼市議会の報告がありました。市役所に非常に有益なシステムが存在しながら、全く活用されず動いていなかった。それが議会での一言により、一気に動き出した、ということなのです。まさに、議員冥利に尽きますね。

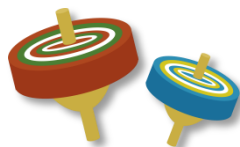
参加された一人一人にメッセージをお願いしましたが、共通して感じたことは出会いの面白さでした。

今回は「自然観察クラブ」の会員としてのつながりで集まったのですが、お話を聞くと、会員の間に他にも色々な、複雑な関係があったり、あることがわかったり、これはやっぱり田舎暮らしならではのことであり、誇るべきことなのだろうと思い、嬉しくなりました。今後も、こういう出会い、つながりを大切にしたいものですね。お忙しい中、校長先生ご夫妻、PTA会長も参加して下さい、ありがとうございました。

（阿部良司）

### ※ 参加者

石川さやか、石崎隆史・裕子、稲葉幸枝、半田光晴、福田宜男・明子、  
阿部良司・みゆき・瑞穂（計10名）



### 自然観察会に参加して

鹿沼へ行く用事ができ、日程は自然観察会の日に合わせていくことにした。私  
が来るというので、特別に塩原・新湯の湯荘白樺に1泊し、翌日は新湯富士(富  
士山、標高1180m)と大沼の樹木を中心とした観察会であった。

11月19日、11時40分くらいにJR鹿沼駅に着いた。阿部隊長の店に見なれ  
ない樹木があった。奈良へ帰ってから調べると、中国原産とも言われるマメガキ  
であった。青い実から柿渋をとるために古い時代に日本へ伝わった。盆栽のもの  
を見たことがあるが剪定してあるので、自然の枝ぶりを見るのは初めてである。関  
東地方以西の山には、リュウキュウマメガキがあるが、葉柄が長いので区別でき  
る。牧野新日本植物図鑑には、マメガキを、シナノガキ(ブドウガキ)とある。信濃  
地方でよく植えられていることと、実が小さく黒くなり、ブドウの実のようなので、この  
名があると記されていて、実がやや大きいものをマメガキとある。似た名前のも  
で、リュウキュウガキ(クロボウ)は南太平洋に広く分布していて、日本には沖縄や  
奄美にあり、実は有毒で、そのままでは食べられない。トキワガキ(トキワマメガキ)  
は名が示すように常緑(ときわ)である。いずれにしても、マメガキ類は、他のカキと  
は違い葉の丸味がなく、細長いのが特徴である。

富士山と大沼で見た樹木はクロビ、ウラジロモミ、アスナロ、サワラなどの針葉  
樹やハリギリ、ナツツバキ、リョウブ、サワフタギ、タケカンバ、ナナカマド、マユミ、  
ハルニレ、ズミ、ミズナラ、ヤマナシ、カエデ類ではハウチワカエデ、コハウチワカ  
エデ、ヒトツバカエデのほか、メグスリノキもあったのには驚いた。

大沼にはオオズミがあるそうだが確認できなかった。ヤマナシ  
は栽培されているナシの原種の一つで、甘酸っぱく噛むと  
歯に固いものを感じる。これはナシ特有の石細胞であり、  
品種改良されたナシでは、あまり気にならない。シダ植物  
ではブナやミズナラなど標高の高い所にあるオシダが多く、  
トウゲシバやヒカゲノカズラ、ジュウモンジシダ、リョウメンシダ、  
ミヤマシギシラなどが目立った。1泊した温泉宿の近くには、



特殊なイオウグケがあるとお聞きしたが、火山の有毒ガスが出ているので立入禁止で見るができなかったのが残念であった。

観察会を終えた11月20日は、知り合ったキノコ屋さんのお店が宿泊できるので、1泊させていただいた。福島原発事故でキノコなどもう大丈夫ですかと聞くと、まだダメだよとのことであった。会員のみなさんとは3年ぶりの再会であり、ゆっくり語り合えたことを感謝しています。

### 紅葉について

今回行った富士山など、標高の高い所では紅葉は終わっていたが、下界では紅葉が見頃であった。

落葉広葉樹は秋になり、肌寒いと感じるようになると紅葉がはじまる。夜間 10℃を割ると、すべての落葉樹が紅葉する。葉の付け根に水分や養分を通さない細胞の膜ができるので、葉緑素が分解されることによって、本来持っていた赤や黄の色が現われる。これが紅葉現象である。赤色はアントシアニン色素なのでアントシアン、黄色はカロチノイド色素からカロチンという。温帯に適応した樹木である。紅葉するのは落葉樹だけではなく、常緑針葉樹も紅葉する。万葉集に「時雨の雨間なくし降れば真木の葉もあらそひかねて色づきにけり」とある。

スギなどの常緑針葉樹も寒さにあうと、それに耐えるために、葉に油脂を形成するため葉が茶色くなる。これが常緑針葉樹の紅葉で、「ロドキサンチン」という。現代人は見過ごしがちであるが、今のような娯楽がない古い時代の人たちは、自然のうつりかわり(四季)をよく観察したものだと感心する。

正木とは、これが本当の木だという意味で、よく似た植物の名前の先にイヌを付けた。いわゆる「似て非なるもの」という意味である。スギの名は「すくすく育つ木」の最初と最後の2文字をとってスギと呼ぶようになった。歴史に詳しい鹿沼学舎の福田純一氏に、日光杉並木は、なぜスギを植えたのか聞いてみた。すると、当時は高い建物が無いが、早く大きくなるので、遠くから参道がわかるからではないかという。私は時代感から、これが本当の木だというスギを植えたのでは、と思っていたが考えすぎのようであった。

ヤドリギ→



(次ページへ続く)



※ 次回は、きのこ再びの後編でマツタケ、そのあとは鹿沼で見た昆虫を予定していますが、自然講座にとりあげてほしいものがあれば優先します。(山口龍治)

## 植物新発見

### リンドウ

11月13日の南押原～羽生田ハイキングではいくつかの古墳の周辺でリンドウを見た。みんな「リンドウ」と言っているが植物愛好家の僕としてはつい、「リンドウ」とは言っても色々あるよね、これは何リンドウ？」という疑問が過るのである。春に咲くリンドウにはハルリンドウとフデリンドウがあり、いずれも完全に開花する。ハルリンドウは大きな根生葉（地面に広がる葉）を持ちロゼット状になる。フデリンドウの根生葉は小さく、ロゼット状にならない。古峰ヶ原の湿原周辺で見られるものはこれである。またハルリンドウに近く、高山帯の湿原に生えるものにタテヤマリンドウがある。秋に咲くリンドウにはオヤマリンドウとエゾリンドウがあり、いずれもほとんど開花せず、開花しても先端が少し開く程度である。オヤマリンドウは茎頂にのみ花を付ける。古峰ヶ原の湿原周辺で見られるものはこれである。エゾリンドウは茎頂のみでなく、茎の上部の葉腋に数段に花を付ける。那須の茶臼岳等で見られるものはこれであり、生花として売っているのもこれが多い。

今回、古墳の周辺で見られたリンドウは、秋でありながら完全に開花しているのだから、いずれにも当たらない。秋に開花し、しかも完全に開花するリンドウ、それはりんどう科の「リンドウ」である。10～20cm位の背丈で咲いているように見えるが、いずれの個体も自らの重みに耐えかねて横倒しになっており、先端のみを上向きにしているのである。それもりんどう科リンドウの特徴である。本来、「りんどう科」のような科名になる植物は、私たちの身近な所に生育する植物から選ばれたはずである。僕が今まで見たことのあるりんどう科植物はみな、平地ではなく低山帯以上で見たものであった。しかし、りんどう科リンドウは我々の身近な所、平地の叢林に生える植物である。僕が今までりんどう科リンドウを見たことがなかったのは、①山はよく歩いていても、平地林をあまり見ていない。②生育地たる平地林が開発のために減ってしまった。③我々の身近な平地を生育地とする上に、美しい花が人に好まれるため、採取されて減ってしまった。等がその理由として考えられる。

(阿部良司)



## 宇都宮郷土史

宇都宮史料保存会々長 徳田浩淳著

### 草創の頃

数千年以前の宇都宮は、八幡山、二荒山、荒尾崎と、小高い丘陵地帯が北から南につづき、この連峯はさらに旭町御本丸から河原町の先まで、なだらかな高台になって伸びていた。上町附近は、釜川に沿って沼沢が散在し、窪地は殆んど湿地々帯であり、それからあふれた水の一部は百目鬼附近の岩の間から東に落ちて田川に合流し、その他、大部分は日野町南の釜川に吞まれて、これまた田川に合流していたようである。

田川は、八幡山の東下から今泉方面にまで川幅が広がり、そのあちこちに、泥水の満ちた沼池や沢が下町一帯に散在していたと想像される。



このような地形のなかで、山裾の南面した水に近い、季候の温いところに先住民が自然を相手に生活し、魚、猪、鹿、兎の類を生そのまま食べたり、栗、柿などの果実を常食としていた。それらの人々は、一ヶ所に食物が無くなると他所に移住し、山野を走ること獣のように早く、水中をぐること魚類のように敏速で、身体全身には毛や髯が黒々と生えていたという。

稍すぎて、一定の場所に安住するようになったが、住家は1メートル位、土を掘り、自然木の柱を立てた上に木の葉などを乗せて這って出入りした。獣を料理するときは石斧(磨製、打製)を使用し、石皿、石鍋などの石器を用いた。

着物は、熊や鹿の皮を身に付け、石に穴をあけて摩擦によって火を出すことを知ってからは、生物を焼いて食べるようになった。

西原、江曾島などは深林、原野が荒漠として続いており、猛獣、奇鳥は山野に充ちていたであろう…勿論、この頃は地名などではなく、全く想像することも難しいような状況であったであろう…。

約3,000年から3,500年前位のことで、先住民族が穴居生活をしていた時代である。これを物語る資料として、小幡町から石斧、日野町から石棒、下河原から土器、石錐、磨製石斧、石棒、石更などが発見され、塙田町蒲生神社の敷地からは打製石斧が、西塙田の神社附近からは土器、石斧などが出ており、その外、西原方面からも土偶、石斧、凹石、独鈷石が発見されている。

**上古の宇都宮……**記録の初めは、崇神天皇の48年(西暦49年前・昭和34年から2,008年前)の1月に、天皇の第一皇子である豊城入彦命が蝦夷平定のため東国に参られた(日本書記)ことで、命は、雀宮、江曾島附近で野蛮な原

住民を鎮撫されてから、日高見国荒尾崎(下ノ宮)に田中大明神の御神体を安置なされて、高田邑(旧御本丸の地)小田の中に御仮居を作られ、池があるのでこの附近を「池ノ辺」と名づけられた(志料)という。

この豊城入彦命は「池ノ辺」附近に3年ほど滞在されて、毛野国(上毛、下毛を合せて毛ノ国と言った)一帯の治安を維持された。それから、命(みこと)の子孫が代々この地方の国造となられた。

景行天皇の56年8月に、豊城入彦命の孫に当られる御諸別王が、天皇の命によって東国の都督となった。池ノ辺(後の宇都宮)も、その統治下に入っていたことは勿論である。ついで成務天皇の3年(133年)には、御諸別王の御子である荒田別王(姓氏、紀一大日本史)が都督となり、その御子、賀我別王がその後を嗣いで毛野国を納められた。仁徳天皇の41年(352年)には、毛野国を渡良瀬川を境界にして上毛野、下毛野と分けて2国とした。下毛野には、豊城入彦命の六世に当る奈良別王が国造(くにのみやつこ)となられた。此時、奈良別王は、荒尾崎(下ノ宮)に豊城入彦命を祀られて国社とされたという。

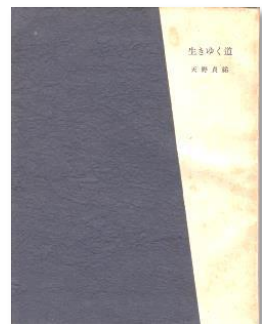
雀官附近にある牛塚(大人塚)や綾女塚のような古墳は、この時代の皇族または、それに従って来た身分の高い武将のものであると推察されるし、臼ヶ峯丘上の古墳や雷電神社の古墳なども当時の貴族の古墳であることには間違いなく、また八幡山および丘陵つづきの戸祭方面の古墳、さらに長岡百穴附近の古墳など…宇都宮の周囲の土地には、古墳や塚が多いが、これらは、いずれもこの時代の人々を葬ったものと言えよう。

## ☪ 生きている言葉 ☪

### 天野貞祐『生きゆく道』

(前略)それ故に生きることは容易だとはいえない。といっても如何なる境邁においても感謝と慰安とを見出すことは不可能ではなく、また苦難はそれに堪ええぬ者にとっては害悪であっても、それを克服する者にとっては恩恵であるときえもいえる。自ら悩みを体験した人にして、初めて他人の悩みを共に悩むことができるのであるが、恕(思いやり)とか同情とかいう徳はこに成り立ち、ひとはそれによって人間性の根源に参与し能うからである。苦難の克服は人間性の内実を開示して、人生のあらゆる価値に對する鋭敏な感覚を目覚めしめる。悩みの体験者にして初めて深く人生を生き、充実した生存を営むことができるのである。ゲーテの詩に

涙を流してパンを食べなかつた人



(次ページへ続く)



思いなやむよるよるを

ベットに倚って泣き明かさなかつた人

その人は神々を知らない

とあるのは、苦悩を知る者のみが人間性の根源を会得しうることを教えると思う。

## ❧ 愛書家のひとり言 ❧

### 続・励ましの言葉

ボブ・ディランの詩は難解であるというが、そもそも音楽を楽しむために詩を詳しく理解する必要があるであろうか。ボブ・ディランは初来日した時のインタビューで「日本語の国で、あなたの歌は理解されるでしょうか？」との問いに対し「フィーリングでわかると思うよ」と答えた。その通り、詩の意味はすべてわからなくても、その歌唱と音楽で、ボブ・ディランの訴えは伝わるのだと思う。そう、ボブ・ディランは音楽という芸術なのである。そのうえ、ディランの音楽には詩がついている。その詩は難解ではあるが、往々にして心を打つ文句が潜んでいる。「僕がいちばん思っていたことは、君と友達になりたいってことなんだ」「遅かれ早かれ誰かがわかってくれるだろう、僕が君に近づこうと一生懸命だったことを」「でも、そんなふうに、君を失うために生まれてきたんじゃない。君が欲しい、君が欲しい、君が欲しい、だから…」一つの音楽の中で、これ以上の詩の意味を理解する必要があるであろうか。長い詩の中にあるこのテーマが、その詩全体を表わしているのであって、聞く者はその一つのテーマだけを頭に置いて聞けば十分なのである。一つ一つの言葉の意味を理解する必要はないのだと思う。

ボブ・ディランのアルバムより今回は Blonde On Blonde から New Morning まです、それぞれから1曲を選んで、そのテーマと見られる部分を紹介します。

君はすきなようにしたらいい、そうさ、ぼくはぼくさ、  
そしたら、時がおしてくるだろう、だれがたおれ、  
だれがのこされたか、きみがきみの、僕が僕の道を行くとき。

Most Likely You Go Your Way(and I'll Go Mine)／BLONDE ON BLONDE  
ジョン・ウェズリー・ハーディングは貧しい者の友、両手にガンをもって旅をして、この地方のここかしこで、多くのドアを開けさせたが、正直者を傷つけたことはなかった。

John Wesley Harding／JOHN WESLEY HARDING  
愛しかない、それが世界を動かしている。愛そして愛だけだ、それは否定できない。

それについてどうかんがえようとも、それなしではなにもできない。(中略)だからすべての愛をあたえてくれる人がいたら、心してうけとり、にがしてはいけない。ぜったい確実に、あなたは傷つくはずだ。ぼいとすててしまえば。

I Threw It All Away／NASHVILLE SKYLINE

君がいなければ空は落ち、雨はあつまるだろう。きみの愛がなければ、ぼくはどこにもいられない。きみがいなければ道にまようだろう。きみはそれを知っているだろう。

If Not For You／NEW MORNING

たいていの人はすばらしい詩を読んだとしても、ほとんどの内容を忘れてしまうもの。でも、その詩の中に一つだけあったすばらしい言葉は、けっして忘れられないものですね。おぼえておくのはそれだけで充分。

ボブ・ディランの言葉と、あなたが下さるさりげないたよりは、忘れ得ぬ、励ましの言葉。  
(阿部良司)

## ☞ 山書談話室 ☞

白坂正治氏より暮れにいただいたおたよりです。

『月報第47号』記念特集は、言葉が言葉を呼んで呼ばれた言葉がまた言葉を呼び紡がれた40ページを味読させて頂きました。多くの人がボブ・ディランを語り、これからも語り続けられることでしょう。その度々に語られる人物は「生」を享け、果てしない希望の夢が結ばれるのだと思います。ボブ・ディランが2週間見つからなかった言葉は“沈黙”だったのかもしれませんが。そして、その間、世界中の人々は湧きおこる感情の嵐に魂の行間を揺さぶられ、ボブ・ディランからボブ・ディランに還ることもあれば、別の何かにすがり還ることもあったはずです。私がボブ・ディランから田部重治に還ったように。明年もどうぞよろしく御願い申し上げます。

〈腰折れ①〉 年の瀬の 便り頼みに ふみをつむ

〈腰折れ②〉 悲しみを ふわりと包む ともきずな

2016年12月27日

返信 偶然の出会いから始まった友との、そのきずなが、深まりゆくたびに思う、神が味方している(With God on Our Side／Bob Dylan)と。(阿部良司)

## ㊦ あとがき ㊧

2月11日付の下野新聞の県央・宇都宮版に「冬芽観察しよう」と題して植物観察会の案内があった。ういゝ自然に親しむ会の主催で、氏家市民ミュージアム隣接の勝山城本丸跡周辺の森で冬芽や、人間や動物の顔のように見える葉痕、すなわち葉の落ちたあと、幹に残っている切り口の模様を観察しようというもの。指導されるのが田代俊夫氏とのことなので、自分に有無を言わせずに出かけた。田代氏は塩谷にお住まいでかつて小中学校で教鞭をとられた先生である。独学で植物学を学ばれ、シダ類にも詳しく、栃木県では植物学の第一人者である。栃木県シダの会の会長で、一昨年前までは栃木県植物同好会を実質的に指導しておられた。すでに90歳を越されたはずである。植物同好会解散後もシダの会の観察会で僕は何度か田代先生にはお会いしていたが、植物同好会解散後、音信不通になっている元会員にお会いできるかも、という微かな期待もあって出かけたのである。冬芽の観察という地味な観察会であり、5～6人の参加者であろうと思っていたが、担当者を含めなくても10人ぐらゐの参加者があった。残念ながら植物同好会の元会員の参加者は田代氏と僕以外になかったが、野澤辰郎さんという方に声をかけられた。僕は全く認識がなかったが、野澤さんは、僕のことを那須のスキー場建設問題の現地観察会で、北温泉からシロヤシオの群生地である中ノ大倉山までのハイキングに参加して以来(20年前か?)知っており、その後もいくつかの自然観察会で会っている、とのことである。全く申しわけない次第。それでも同好の士、話に打ち解け、さっそく本会の自然観察会にも参加していただくことになった。野澤さんは宇都宮の泉が丘にお住まいで、偶然にも長岡の森をフィールド・ワーク・エリアとされておられるとのこと。そこで19日の本会の自然観察会に参加いただき、お勧めのポイントを案内していただくことになりました。皆様、ぜひご参加ください。

(阿部良司)

## ㊦ 次回予告 ㊧

3月19日(日) 足利・行道山より織姫山へ

～傑僧行基の足跡を辿って～

行道山——大岩山——両崖山——織姫山

4月2日(日) 春休みお花見行

～八王子城跡ハイキング～

北条氏照の墓～城山(八王子城跡、445m)～富士見台～蛇滝口～小仏関所跡

☞ 本号の内容 ☜

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 特別寄稿                     | 2  |
| 俳句など...                  | 2  |
| 活動案内                     | 3  |
| 宇都宮・長岡の森ハイキング～長岡百穴と瓦塚古墳～ | 3  |
| 特集ボブ・ディラン                | 4  |
| 活動報告・1                   |    |
| 南押原～羽生田ハイキング             |    |
| 判官塚古墳・羽生田古墳群と社寺城跡めぐり     | 23 |
| 活動報告・2                   |    |
| 自然観察クラブ・新春学習会報告          | 27 |
| 山口さんの自然講座                |    |
| 自然観察会に参加して・紅葉について        | 28 |
| 植物新発見                    |    |
| リンドウ                     | 30 |
| 野州文献好古                   |    |
| 徳田浩淳『宇都宮郷土史』             | 31 |
| 生きている言葉                  |    |
| 天野貞祐著『生きゆく道』             | 32 |
| 愛書家のひとり言                 |    |
| 続・励ましの言葉                 | 33 |
| 山書談話室                    |    |
|                          | 34 |
| あとがき                     |    |
|                          | 35 |
| 次回予告                     |    |
|                          | 35 |



鹿沼の自然・栃木の旅 月報第48号

2017年2月発行

北光・自然観察クラブ 鹿沼

鹿沼市戸張町1818

(クリーニングハウスあべ内)

発行人 阿部 良司

携帯 090-1884-3774

FAX 0289-62-3774

携帯 ☎ shizenclub.2006@docomo.ne.jp

E-mail a2b5r7j7@one.bc9.jp



ホームページでもご覧になれます→

クリーニングハウスあべ

検索